

児の森 自然観察会

1 月

活動時間	午前9時15分～ 15 時
天 候	曇り雨
気 温	駐車場 度
	わくわく広場集合
分布調査	メッシュ番号 8 : 20

調査日	平成30年1月6日(土)
参加者	観察人 8 人
	一般 10 人
資 料	

分 類	種 類	
草 本	花	スイセン、スミレ、ツワブキ、ハコベ(ヒヨコグサ)、ホトケノザ
	蕾	
	種・実	アメリカフウロ、セイタカアワダチソウ
	その他	スイバ、ハナミョウガ、ヒガンバナ、ホトトギス、ミソハギ
木 本	花	ギンモクセイ、モチツツジ、ヤツデ
	蕾	アセビ、エドヒガン、シデコブシ
	種・実	アリドオシ、イズセンリョウ、イロハカエデ、ウメモドキ、ガマズミ、クチナシ、クロガネモチ、サネカズラ、サルトリイバラ、ソヨゴ、タラヨウ、チャノキ、ツルグミ、ナンテン、フユイチゴ、マンリョウ、ムベ
	その他	アベマキの落葉、アラカシ、イトラン、イヌツゲ、カシワ、キツタ、クロバイ、コノテガシワ、コナラ、シャラ、スイカズラ、ツブラジイ、テイカカズラ、テングス病、ネズ、マツ、マンサク、ヤマコウバシ、ヤマブキ、リョウブ
シダ	イノデ、イノモトソウ、イワヒメワラビ、イワヒバ、ウラジロ、キジノオシダ、クマワラビ、コシダ、トラノオシダ、ハシゴシダ、ヒカゲノカズラ、フモトシダ、ベニシダ、ホラシノブ、ヤブソテツ	
鳥		
イネ科	スズメノカタビラ、チガヤ、メリケンカルカヤ	
タケ・ササ	ネザサ、ハチク、マダケ、モウソウチク	
その他	ウメノキゴケ	
説明(波多野講師)		
※東高西低 400m以下の丘陵がつながっている。400m以上は山。		
古生層 小牧山・岩崎山・天川山・内津々峠・弥勒山につながる。		
※四季の森 700万年前		
上末層 80万年前		
下末層 10万年前		
南西に広がり、上末・下末層の下に小牧層がある。		
※小牧の最低標高は、小木の6.7mで2万5千年前。舟津は1万年前。		

説明(続き)

※大山の花崗岩は、白い長石が多い。

岩崎の花崗岩は、黒い雲母が多い。墓石に使う。

※尾張三山(白山・尾張富士・本宮山)

白山(白山社(はくさんしゃ))

大山祇神(おおやまつみのかみ)

菊理媛命(きくりひめのみこと)(下原・陶にも。)

尾張富士(大宮浅間神社(おおみやせんげんじんじゃ))

此花のさくや姫命(ニニギノミコトの奥さん)

天照大神(あまてらすおおみかみ)

本宮山(大縣神社(おおあがたじんじゃ))

大縣大神(おおあがたのおおかみ)

福富新蔵、山姥の話

参考:田縣神社(たがたじんじゃ)、玉姫命(たまひめのみこと)

※常緑樹(シイ、カシ、タブ)、潜在自然植生、極相林

※古墳時代:渡来人の活躍。陶・久多良木・篠岡・不発

※江戸時代:林を守った。薪に利用。留山・巢山

※明治時代:焼き物や鉄製品のたたらをするため、木を切った。

日本三大荒廃地、山が荒廃した。松根掘取禁止。

明治9年 地租改正

明治15年 150万本の植樹(クロマツ、ヤシャブシ)

※日本列島の成り立ち

1億5千万年前、大陸から東北と西南に分離した。

静岡県糸魚川線で分離している。

伊豆半島がぶつかり、中央構造線ができる。

中央構造線:諏訪湖・伊勢湾・紀伊半島・四国・九州

※木責の行事 実が成る様にナタで切る「しぐさ」をする。

※サカキ(榊)とシキミ(檜)、ヒサカキ

※シイの樹木が若い。伊勢湾台風で東海市、その後に出たもの。

※マツは先駆植物。侵入が早く、段々に切れば、定着する。

アカマツは適応力は高いが、競争に弱い。

クロマツは寒さが苦手。海岸に多い。

※江岩寺:飛鳥時代782年~大山寺として1110年ころまで。

(不明)1112年 元海上人が正福寺を建てるも、1570年焼失。

1571年 正親町(おおぎまち)天皇が哲大禅師に命じ建立。

第2代 秋岩恵江和尚から江岩寺という。

※ムベとアケビとゴヨウアケビとミツバアケビの違い。

説明(続き)

※モウソウチクとハチクとマダケ

節に輪が一つ(モウソウチク)、二つ(ハチクとマダケ)

正倉院にハチクの筥がある。ハチクの茶筥

観賞用、ものさし、建築材。

タケは先から木は元から。第一節に穴(ミゾ)があるマダケ。

※シデコブシ、ヒトツバタゴ、周伊勢湾岸植物

※芭蕉「山路来て 何やらゆかし スミレ草」

※ヤマザクラとカスミザクラ。ヤマ毛がない。カス毛が少しある。

※タケとササの違い。タケ:皮が取れる。ササ:皮が取れない。

※鳥居の種類(神明鳥居、明神鳥居、大輪鳥居)

※児神社:近衛天皇が病の時、焼き討ちにあった大山寺(正福寺)の稚児僧を
吊うため、1155年 鷹司友行朝臣が創建。矢羽の紋と五七の桐。

※飛山濃水:尾張藩は、鳥居峠までであった。

元禄15年 木曾を境に信濃と美濃に分かれた。

明治になって、濃尾は岐阜と愛知に分かれた。

さらに、愛知は尾張と三河に分かれた。

愛知の名は、高市黒人(たけちのくろひと)の歌 万葉集271

「桜田へ 鶴鳴き渡る年魚市湍 潮干にけらし 鶴鳴き渡る」

(さくらたへ たづなきわたるあゆちがた しほひにけらし・・・)

※濃尾平野:水盆 1020億トン、木曾川93億トン、長良37、揖斐23

1年に400億トンを汲み上げる。地盤沈下を防ぐため。

どこでも水が出る。100m×3度+20度=温泉

※ヒトツバタゴ:大正時代、水谷奉文、犬山東方にあり。

※入鹿出新田:いる鵜飼家の貯水によって、小牧に移り住んだ部落。

※フジの右巻きと左巻き。右:ノダフジ、左:ヤマフジ。

※古墳:6世紀ごろ百済から来た偉い人。天井の1枚は篠岡小学校。